

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873800290
法人名	社会福祉法人 西予総合福祉会
事業所名	グループホーム うつのみやさんの家
所在地	愛媛県西予市宇和町田苗真土1994-1
自己評価作成日	平成26年8月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成13年7月、民家改修型の建物で定員6名で開設。建物の老朽化により、平成26年に隣の小学校区に3名増で新築移転。隣接施設には、デイサービス・ショートステイ・学童の機能を持つ“ななほし中川”があり交流をしている。現在、小学校区の出身者が数名いたり、隣接のデイサービスを利用していた方が入所したり、住み慣れた・通い慣れた地域での生活の継続支援が出来ているのではないのでしょうか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の同級生が婦人会の活動をされており、仲間を連れて来てくれて、居間のスペースで一緒に懐かしい歌を歌う等して過ごされた。ご自宅から入居となった方は、昨年までご自分で梅干を漬けておられたこともあり、分量等を教えてもらいながら事業所でも一緒に梅干作りをされた。ご自宅で川柳を作って郵送で投稿していた方が入居され、現在は、つくった川柳を持って取りまとめする方のお宅に提出できるよう支援されている。又、親族に出すはがきにも川柳を書いて出せるよう支援して、ご本人は返事を楽しみに待ってられる。入居後、出身地や境遇が似ていたことで仲良くなった利用者があり、ツーショットの写真をハガキにしてご家族に送付した際には、ご家族から「安心した」等の感想もあったようだ。

調査訪問時には、シルバーカーの購入を考えている利用者、他の利用者が利用しているものや業者から見本を数台用意してもらって、居間で職員と一緒に、使い心地等を検討されていた。又、自助具も法人施設で借りて試しながら、利用者に向うものを用意されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム うつのみやさんの家

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

片山 弓子

評価完了日

平成26年8月31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人理念、GH理念を全職員で共有出来るよう掲示している。 地域の行事に参加して、地域の一員として生活できるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所は、昨年12月に現在地に新築移転されて、これまでと同じように、「一人ひとりの人格を尊重し、生き生きと地域の一員として生活できるよう支援する」と理念を掲げておられる。又、理念にさらに具体的に取り組めるように、今年度の努力目標を3項目立てておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 昨年末に移転し、少しずつ近隣住民との交流が出来始めている。散歩時の挨拶、野菜を頂くこと、地域の行事(輪抜け、盆踊り、敬老会、運動会など)の行事にも参加して交流を持つ機会を作っている。	
			(外部評価) 併設する建物「ななほし中川」(学童保育施設・デイサービス)での行事に参加した際には、知り合いの方と顔を合わせることも多い。事業所が所在する地域の敬老会は、4月に小学校で開催されており、地元に住民票のある利用者は参加できるよう支援された。 今年度の努力目標に「地域に密着した施設づくり」を挙げておられる。新たな地域で事業所が根付いていけるように、地域のことを知る取り組みや、看板等、地域の方に事業所を知ってもらい取り組みにも工夫していかれてほしい。利用者と地域の中に出かけるような機会も積極的に作り、さらに、運営推進会議等を通じて地域との関係を作っていかれてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進委員会で話をしていることしか出来ていないのが現状。 十分な情報発信は出来ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催して、意見交換や事業報告をして情報交換をしている。 移転後間もないので、運営推進会議などで地域の行事など教えてもらい行事参加に繋げている。</p> <p>(外部評価) 移転後、初めての会議時は、見学も兼ねて、移転前の地区の方達にも参加いただけるよう送迎された。又、所在する地区の区長や民生委員、公民館長、近隣の方にも参加してもらって、事業所の紹介等をされた。市内の他グループホームが運営推進会議の取り組みのひとつとして、事業所を見学に来られ、同時に事業所内で運営推進会議を開催された。その折には管理者も出席されて、ご家族の参加があることやいろいろな活動にご家族が参加していること等、参考になったようだ。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、現状報告。 GHでの問題点について改善策がないか相談に行くこともある。 メール配信での情報受信。 介護相談員の受け入れを行っている。</p> <p>(外部評価) 市内のグループホームが集う連絡会が年に1回ある。介護相談員の訪問が年3回あり、川柳の得意な利用者の方は、川柳を書いた短冊を相談員にプレゼントすることもあるようだ。事業所に対しての苦情等があった場合は、法人ホームページや事業所便りでの対応や解決に向けた取り組みを公開されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束しないケアを実践しているが、職員が手薄な時に、1人で外に出ないようなお願いをすることはある。 日中は施錠せず、夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 法人内研修時に、職員は身体拘束について勉強をされている。座っている状態からじょじょに床にずり落ちていくような状態の方には、ソファに座る際には、前に台を置いて足を上げ、急にずり落ちないように工夫されていた。玄関は日中、施錠しておらず、玄関前は階段とスロープが設置されている。調査訪問の帰り時には、利用者のおひとりが玄関まで来て見送ってくださった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待などの研修は出来ていない。職員各自が利用者の尊厳を守るような行動や言動に注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、必要とする利用者がいないので支援出来ていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明を行い、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 今年度は、法人中長期計画の見直しの年で、家族アンケート・利用者アンケートして1年通してまとめていく計画で進んでいる。 それ以外でも、家族の面会があった時には意見の反映が出来るよう心がけている。 年3回の介護相談員の受け入れを行っている。 (外部評価) ご家族との連絡の窓口は管理者が行っておられる。事業所では、3ヶ月ごとに事業所便りを作っており、遠方に住み来訪が難しいご家族や利用者を気にかける他ご家族にも、事業所のことや利用者の暮らしぶりをより具体的に知ってもらえるように送付されている。法人でご家族にアンケートを実施した際には、災害時の避難経路についての不安の声もあった。施設長は、次回訓練時に、消防署のアドバイスを受けながら改善に向けて取り組みたいと考えておられた。	さらに、ご家族と一緒に利用者の暮らしを支えていけるように、今後も取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。ご家族と一緒に楽しむ機会を作ったり、運営推進会議にも参加いただけるように取り組みをすすめていかれてほしい。管理者は、利用者がもっと外出ができるよう、ご家族と一緒に考えていきたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会などで協議事項を話し合い、意見や提案を生かされるよう出来ることから改善している。 施設長との面談等。	
			(外部評価) 広報係の職員が、事業所便りを作っており、職員の紹介や利用者の川柳の紹介、利用者の暮らしぶりの写真を載せたり、又、駐車場の案内、さらに、担当職員手書きの個別のお手紙欄を設ける等して工夫を凝らしており、ご家族に好評のようだ。今年度から法人内で職員の処遇面の仕組みが新たになり、その中の一つとして、職員それぞれに目標を立て、管理者が面談を行うようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 今年度から人事考課の制度が変わり、取り組み始めたばかり。 現在は職員不足が一番の課題である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内:救命救急講習会、新人研修、新人フォローアップ研修、メンタルヘルス研修、人材育成担当者研修 等 法人外:地域密着型サービス協会主催の研修、管理者研修 今年度は職員不足で施設外の研修に行くことが出来ていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の研修会でネットワーク作りに生かしている。 自主的に他事業所に訪問しサービスの向上に向けた取り組みをしている職員もいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には、安心して利用出来るよう傾聴することで不安要素を取り除けるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、本人・家族や担当ケアマネから情報収集し安心してサービスが利用できるよう心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の介護サービス利用時の情報も参考にしつつ、環境や生活状況の変化に配慮し職員間連携をとって対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に日常生活動作を行い、出来ることの継続支援が出来るよう取り組んでいる。今年度は、利用者に梅干し作りやしば餅作りを教えてもらいながら一緒に取り組んだ。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係が途絶えないよう、季節の便りや3ヶ月毎の近況報告を行い、面会時には近況報告をし信頼関係を深めている。家族の声が聞きたい時には電話を利用し安心した生活が送れるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容室を利用したり、入所前に利用していた隣接デイの友人に会いに行ったり、入所前の馴染みの生活が継続出来るよう心がけている。今年度は、自宅近くの知人のご好意で野菜の収穫に行かせてもらい楽しまれた利用者もいる。 (外部評価) 利用者の同級生が婦人会の活動をされており、仲間を連れて来てくれて、居間のスペースで一緒に懐かしい歌を歌う等して過ごされた。ご家族が入居している他グループホームに会いに行けるよう支援されており、職員も他事業所と関係を作ることができているようだ。ご自宅から入居となった方は、昨年までご自分で梅干を漬けておられたこともあり、分量等を教えてもらいながら事業所でも一緒に梅干作りをされた。ご自宅で川柳を作って郵送で投稿していた方が入居され、現在は、つくった川柳を持って取りまとめする方のお宅に提出できるよう支援されている。又、親族に出すはがきにも川柳を書いて出せるよう支援して、ご本人は返事を楽しみに待っておられる。入居後、出身地や境遇が似ていたことで仲良くなった利用者があり、ツーショットの写真をハガキにしてご家族に送付した際には、ご家族から「安心した」等の感想もあったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で自然と仲良くなる一方、輪に入れない人、気の合う合わない人もいることを把握し、職員が間に入りお互いが支えあえるよう心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) この2年間退去者いない為、最近の取組み事例がない。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いをケアプランに反映させれるよう日々の会話の中から情報収集している。 (外部評価) 調査訪問時には、シルバーカーの購入を考えている利用者、他の利用者が利用しているものや業者から見本を数台用意してもらって、居間で職員と一緒に、使い心地等を検討されていた。又、自助具も法人施設で借りて試しながら、利用者に合うものを用意されている。入居前には、以前利用していた介護施設等からも情報を得るようにしており、又、ご家族にも聞き取りして暫定介護計画につなげるようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や面会時などに、家族からの情報収集したり、利用者との普段の会話の中から情報把握出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝のバイタルチェックや、本人の体調、表情の変化、食欲などを把握し状態の変化に気付けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 職員会で話し合い計画を作成している。 家族からは、普段の面会時に要望など情報収集プランに生かしている。 現在、リハビリが検討課題であり関係者の意見も取り入れG Hで対応出来ることを検討している最中である。</p> <p>(外部評価) 以前住んでいたところの近所の方とお会いできるよう、計画を立て支援されたケースがある。お茶を用意してくれており、一緒にじゃがいもを掘ったり、名前を呼び合う等して懐かしい時間を過ごせたようだ。「次は里芋堀においで」と言ってくださったようだ。ケアの検討が必要なケースについては、ご家族も一緒に話し合い計画を立てよう努めておられる。時折、精神面で不安定になるような利用者には、居室で日記に自分の思いを書いたりお化粧品等して、ひとりでゆっくり過ごせるような時間が持てるように支援されている。総合栄養剤で栄養を取っていた利用者について、ご家族から「食事ができるようになってほしい」と希望があり、お好きなアンパン等を探り入れながら食事ができるように支援して、改善に向かった事例がある。ご家族は、「食べられるようになりうれしい」と喜ばれている。計画は、毎月職員カンファレンス時に話し合い、3～6ヶ月ごとにモニタリングして見直されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人ケース記録ファイルに、ケアプランをはさみ確認出来るようにしている。 毎日の記録に、ケアプランの実践によりどのような反応があったかなど記録に残すよう配慮している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 最近では、家族の希望により主治医を協力病院に転院し、より身近な対応が出来るよう配慮したケースがある。 いろいろなニーズに対応し、出来る限りのことは支援していきたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 移転し、十分な社会資源の活用は出来ていないが、地元ボランティアの受け入れや買い物外出、馴染みの美容室、老人施設の納涼祭・保育園の夕涼み会に参加し外出する機会を設けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入所前のかかりつけ医を継続している人、家族の希望も踏まえ協力病院に転院した人、本人・家族の希望を伺い対応している。 症状にあわせて適切な医療機関を受診できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 入居時、かかりつけ医を事業所の協力医に変更する方も複数あり、医師と相談しながら減薬できるよう取り組んでいるケースもある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者3名については、かかりつけ医療機関の訪問看護を受けて、相談・連携を図っている。 看護職員の配置なし。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時には、基本情報を持参しスムーズに入院治療が出来るようにしている。 入院中には、定期的に様子伺いをし、家族・病院からの情報収集に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時に重度化になった場合の対応を家族に説明し理解いただいている。 現在、十分な看取りの体制が出来ていないので今後の検討課題。</p> <p>(外部評価) 介護度が重度になったことを機に、往診が可能な協力医に変更した方は、医師から説明を聞く際には、ご家族とともに管理者も同席された。ご家族は、終末期のあり方について「積極的な医療をしない」ことを決められたようだ。法人内介護施設で看取りや重度化の対応等を経験している職員も複数おり、事業所には重度化にも対応できるよう、浴室にリフト浴を設置されている。</p>	<p>管理者は今後、重度化や看取りの指針を整備して、事業所で支援ができるような体制作りをすすめていきたいと考えておられる。さらに、終末期の支援については、利用者やご家族の希望等もうかがいながら、支援のあり方を示していかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体施設での研修・救命救急講習、避難訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 3ヶ月毎の避難訓練を実施している。 地震・水害などの訓練は今後検討していきたい。	事業所は宇和川沿いに立地しており、所在地域は河川氾濫危険地域でもある。避難場所については、今後の検討課題のようだ。災害時の避難方法や場所については、運営推進会議等を活かして地域の方達とも話し合いながら、具体的な方策を検討されてほしい。
			(外部評価) 伊方原発(伊方町)の原子力災害発生時に備えて、県の事業所団体の協力を得て避難時の受け入れ事業所を三間町に確保された。今後は、協力事業所との関係を作っていくと考えておられた。居室の棚は、地震時に倒れないように金具で固定されている。3月には避難訓練を実施されたが、廊下突き当りの非常出口から敷地外に出る経路についての課題も残ったようだ。9月中旬の避難訓練時は、消防署の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練を行う予定であり、運営推進会議に参加してもらっている近隣の方にも、参加をお願いしたいと考えておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけの内容、口調、目線、声のトーンなどを場面で考えるよう努めている。	
			(外部評価) 買い物に出かけた際には、「今日は中秋の名月だって、お供え物は何にする？」等と利用者に相談して、利用者の風習等を大切に支援できるよう取り組まれている。一番高齢の男性利用者には、皆の様子が見渡せる席で食事できるよう配慮されており、夕食時には食前にあいさつをしてもらったり、時には、行事等の折に、皆の前でのあいさつをお願いして活躍できる場面を作り支援されている。お孫さんやひ孫さんが来られた時にお金をあげることを楽しみにしている方には、ご家族と相談してご自分でお金を持てるよう支援しており、ノートを居室に用意して利用者と一緒に管理をされている。又、コミュニケーションが難しいような方には、職員がボディータッチしながらかわる等して工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を大切に、自己選択できるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切にしているが、対応する職員数やリスクを考えると十分な対応が出来ていないことがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服選びを一緒にしたり、爪きり・髭剃りなどの身だしなみはこまめに行っている。行きつけの美容室に行きパーマをする方や、気分の良い時には化粧をしておしゃれを楽しむ方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来ること、出来ないことの身極めをし、食事の下ごしらえを一緒に行っている。	
			(外部評価) 食材は、スーパーの宅配等を利用しており、注文して届けてもらうようになっている。届いた食材は、利用者と一緒に内容を確認したり、「キャベツとってくれますか」等と利用者にとってもらいながら、冷蔵庫にしまう等されている。利用者は、力量に応じて、野菜を包丁やスライサーで切ったり、混ぜたりしながら食事にかかわっておられる。食事の折には、職員も同じテーブルで同じものを食べながら、「～さんが切ってくれたキュウリよね」「～さんは、なすを上手に切ってくれてるね」と、言葉をかけたり、食事や季節のこの話をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量が少ない人に関しては、果物や好物などを用意して少しでも摂取出来るよう対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の状態により支援している。必要に応じて、舌磨き・磨き直しを介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の希望のもとに、自尊心を傷つけないよう1人1人に応じた排泄介助を行っている。自力でトイレに行けない方は排泄誘導を行っている。 排泄チェック表・記録を活用している。	
			(外部評価) 減薬に取り組んでいるケースについて、職員は、利用者の状態を医師に報告したり、様子を観察しながら支援をすすめておられる。現在は、利用者の精神面の改善が見られ、トイレでの排泄も可能になったようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時の水分摂取を心がけ、運動や食物繊維を含む食材を取り入れ便秘予防している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本2日に1回、PM入浴。入浴の順番もなるべく意向に添えるよう配慮している。 同性介助希望者には対応している。	
			(外部評価) 浴槽は、小柄な方の前方すべりを防ぐためのストッパーや手すり等が付いており、ご自分の力で安全に浴槽で温まれるような設備を備えておられる。毎日お風呂を沸かし、利用者個々に2日に1回、入浴できるように支援しており、嫌という方には間を置いたり、同性介助の希望に応じながら支援されている。浴室には、リフトが設置されているが、現在は対象者はおられないようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日、その人の状態に応じて、日中も休養して過ごすこともある。 出来るだけ、日中の活動量を増やし、夜間の安眠に繋げている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、内服薬の把握をしている。 薬に日付を記入し、誤薬防止、投薬忘れに気を付けている。 投薬チェック表の活用。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人ひとりに応じた役割(洗濯物干し・畳み、掃除、食事準備等)や入所前の趣味(川柳)の継続出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員の勤務人数にもよるが、可能な日は散歩・ドライブなど支援している。 地元の行事や季節行事の参加、先月は利用者のリクエストでそうめん流し外出を行った。	
			(外部評価) 調査訪問時の午前中には、職員が車いすを押し、後からシルバーカーを押しながら利用者が一緒に散歩をされていた。1月には三島神社に、初詣に出かけられた。事業所は宇和川沿いに立地しており、前の道は砂利道のため、現在、市に舗装工事をお願いしているところである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理することが困難な方については、家族の承諾を得て預かっている。 自己管理している方に関しては定期的に所持金を確認している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 贈り物が届いた時にはお礼のTELやハガキを出している。 暑中見舞いのハガキを書いたり、遠く離れた家族には広報誌を送ったりつながりを大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 新しい施設で、空調も整っており居心地の良い空間が出来ている。共有部分は利用者と一緒に掃除を行っている。季節の花や壁面飾りをすることで季節感を感じてもらえるよう心がけている。	
			(外部評価) 川沿いに立地する事業所で民家と並んで建っている。移転前とは環境に違いがあり、たとえば、利用者は玄関の段差がない場所でも、以前の感覚で段があると勘違いするような様子も見られたようだが、徐々に現在の環境に慣れて来られているようだ。又、居間からはお隣の境の塀が見えるため、アサガオを植える等して窓から緑が見えるよう工夫されていた。廊下には、利用者がつくった川柳の短冊やお月見の貼り絵等が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合った仲間や、軽作業がしやすいなどの利用者の状態を見ながら居場所の工夫が出来ている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや位牌、家族の写真を持ち込まれる方がいる。馴染みのものを持ち込まれる方は少なく、入所時にGHで使いやすい家具を購入して持ち込まれている方が多い。	
			(外部評価) 居室の窓からは、お隣の畑が見え、季節の野菜の成長が眺められる。普段から職員は利用者を下の名前で呼ぶことが多く、又、居室が同じような扉であることから、居室の入り口には、氏名と別に名前のみを大きく示して、利用者をご自分の部屋がわかるよう配慮をされている。お位牌を持って来られている方も複数あり、ご自分でお茶を供えてお世話する方もある。移転前のしつらえに配慮して、畳敷きの居室も設けており、又、使用していた家具等を持って来られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が分かりやすいよう名前や目印を付けている。廊下には夜間センサーライトで足元を照らし安全に移動できるようにしている。	
			(外部評価)	